【研究主題】　自ら気づき考えるケガの予防
【副題】　～ＪＲＣ活動を通した保健組織活動～

【所属校名】　高島市立本庄小学校
【職名･氏名】　養護教諭　平野　美保

＜主題設定の理由＞

昨年度から、本校は滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校として、「気づき・考え・実行する～笑顔あふれる学校を目指して」というスローガンのもと、教育実践を行ってきた。ＪＲＣ（Junior Red Cross）活動とは、子どもたちと教師が学校という場を通じて赤十字の理念を実践するための活動であり、自ら「気づき、考え、実行」できる学びの機会を提供することである。今回は、養護教諭として子どもの主体性を育みたいと考え実践したＪＲＣ活動について述べてみたい。

＜内容と方法＞

本校は全校児童６２名の小規模校であり、コミュニティスクールとして地域とともにある学校を目指している。保健室の来室は年間約４６０件で、そのうちケガでの来室は約３００件である。昨年度、４年生の児童より「けがマップを作りたい」という提案があり、有志のメンバーを集めてけがマップを作成する計画を立てた。

学校の平面図を拡大印刷し、大きめの丸シールを準備した。保健室前の掲示板に拡大した学校マップを張り出し、赤い丸シールは過去に実際けがをした箇所、黄色い丸シールは危険だと思う箇所に貼ってもらうこととした。また、その際に色覚特性に配慮して、丸シールの中に文字を書いて、色だけで区別しないように児童たち自身で発案して工夫した。全校児童に丸シールを貼ってもらい、完成したケガマップを見たところ、児童たちは運動場の築山周囲でのケガが特に多いことに気づいた。昨年度の来室記録からは、築山周囲で転倒した児童は５名であった。

次はその課題を改善しようと、実際にケガの多かった築山を見に行き、運動場に生息しているワカメのようなイシクラゲという藻が原因であると考えた。そして「ワカメ大作戦」という名のイシクラゲ除去作業を行った。イシクラゲについての動画を作成して流したり、休み時間に児童のボランティアを募集して手作業でイシクラゲを除去したりして、地域の人の発案で重曹水を撒いた。一時的にイシクラゲは減少し、注意喚起をしたことで築山周囲でのケガは減少した。実際に今年度は築山でのケガは１件にとどまっている。今後は継続したイシクラゲの除去や、周囲の泥状の土の交換を地域の方々の協力を得て行っていきたいと児童たちは考えている。

児童たちはこの取り組みを卒業するまで続けて行きたいと考えており、校内のケガマップの次は､地域の安全マップに拡大し、AED や消火器、避難所や登下校時の立ち寄り所の場所を表記したものを作成して、日ごろお世話になっている地域の方々に配布し、役立ててもらうという案も出ている。

＜成果と課題＞

児童たちの変容として、この活動実践が自信となり、積極的に校内の JRC 活動に取り組み、発信・発言をするになった。ＪＲＣ活動を通して、自分の意見が大切にされているという実感や所属感が育った｡そして、そこから次に取り組むべきことを自然と探すようになり、新たな気づきがどんどん生まれ、給食の食器下膳時に配膳車に正しい配置に戻す取り組みや、下駄箱の名前シールが剥がれかけていたのを補強したり等の取り組みが広がっていった。児童・教職員の困り感に、児童たちがすぐに反応し改善してくれるようになった。

課題としては、学校行事の多いシーズンは日程調整が難しいことや､天候により外での活動が難しく、活動を実施したい時にできない状況が続いた｡また、自主的な活動としているため、活動の頻度に個人差があった。課題に対しては、目標を決めて計画的に行事予定に活動を組み込んでいくことと、周囲への呼びかけを強化して、参加人数を増やしていくよう努めていきたい。

最後に、ＪＲＣ活動を通して自主性はもちろん、学校生活の充実感や自己肯定感が育つことを児童・教職員が経験した。変化していく児童たちを身近に感じ、今後も保健組織活動は他者から強制されるものでなく、児童たちか自主的に取り組むことができるように、児童の気づきや考えを支援し、実現していきたい。